



# 関西支部会報

## 三医会関西支部会事務局

〒652-0041 神戸市兵庫区湊川町5-6-7  
松原耳鼻咽喉科医院  
松原 隆志  
TEL 078-531-2545  
FAX 078-521-1651



原発性線毛運動不全症の最近の進歩

三重大學大學院醫學系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

教授 竹内 万彦 (S59年卒)

今年2月に講演させていただきましたが、JRCではその中で述べた原発性線毛運

原発性線毛運動不全症とは、先天的な線毛の機能異常により粘液線毛輸送機能が障害され、中耳炎、慢性副鼻腔炎、慢性下気道感染症をきたす疾患である。男性では約半数で不妊となる。女性では不妊の原因とはならないことが多いとされてくる。

本症は常染色体劣性の形式をとる遺伝性疾患であり、約150000～300000人に一人の頻度でみられる。現時点でおよその原因遺伝子が報告されている。本症に関わる全ての症状は線毛の運動に関与する蛋白をコードする遺伝子の変異によりもたらされる。線毛運動に密接にかかわるダイーンは、分子モーターの一一種である。

本症の患者では出生時から呼吸器・消化器・循環器などの多臓器障害が出現する。幼い時期になると慢性的

下気道炎症のほか、慢性副鼻腔炎、中耳炎の反復をきたす。成人も同様で、慢性気道炎症性疾患を認めるが、激的な呼吸機能の悪化をきたす例は少ない。線毛運動不全症候群の約50%に内臓逆位が合併し、カルタゲナー症候群と呼ばれる。内臓逆位が起る機序も明らかになつた。胎生期のnodeと呼ばれる部位に線毛があり、これによりnodeをとりこむ細胞外液が左方向へ向かう。この左向きの流れにより健常者では心臓の位置を決める遺伝子が左に偏って発現し、心臓が左に形成される。本症

においては胎生期の線毛の動きがみられないと心臓の位置を決める遺伝子は右側に発現し、内臓正常位と内臓逆位が50%ずつ発生する。

上記のような症状があり、電子顕微鏡にて線毛構造の異常が確認されるか線毛運動に関わる遺伝子変異がみられれば本症と診断できる。

本症の特徴として、四肢の筋力低下、立位不全、口盖裂、舌瘻などの

と、電子顕微鏡で観察しても必ずしも線毛の構造は異常とは限らないことと、線毛機能低下の程度が症例により差があることなどがあげられる。

本症の患者の大多数は診断がつくまでに医療機関を50回以上受診するといわれている。先天性疾患であるにもかかわらず、診断が下される年齢は平均で10歳といわれ、内臓逆位を伴わない症例で有意に高い。内臓逆位を伴わない症例では児童期までに内臓逆位を認めたことがある。

ある。本症と確定診断がついた症例の単純鼻部レントゲン写真を検討しても軽度の粘膜肥厚が鼻前庭にみられる程度の場合がある。

気道炎では咳嗽が2週以上続くことはまますない。1か月以上の咳嗽には注意を払つべきであろう。注意深く問診すると、母親から、「そういえばいつもゼロゼロしてい

すしも重症ではなく、むしろ、軽度で遷延化している特徴があり、殆ど正常化することはないと言える。3つ目は副鼻腔の大きさである。本症では前頭洞と蝶形洞が小さく、逆にこれらが大きい場合は本症を除外できる。

三医会関西支部長に就任して

松原耳鼻咽喉科  
松原 隆志  
(S54年卒)

23年2月6日(日) 大阪市で開催された三医会関西支部総会において会員の先生方の「推举を賜り支部長に就任させていただき 数ヶ月経ちました。この間 大阪での懇話会(会員 研修医 本学学生) 三重県本部での総会他支部への出席(中部 関東) を経過しました。

長、S33)に誘われこの会に参加してきました。60年頃は杉山名誉支部長が活動をなされ高橋先生らが支えていたように記憶します。平成17年に杉本浩先生が三代目の支部長になれ、新しい活動をなされました。この度、4代目の支部長の大役を仰せつかり身が引き締まる思いです。精一杯役目を務めてゆく所存です。何卒会員の先生方のご指導ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

りかなり混乱が生じているようにおもいます。インターネットによるマッチング等により、かつて2000年以前の先生方が経験なかつたことが発生しているものへと思います。この状態でできれば対応して新しいこの支部の運営が出来ればと存じます。そのためもあって前述の懇話会を今月も5月14日 行いました。新研修医先生及び会員 学生さんを集まつていただきました。

この会は、諸先生方ご存知のように長年おこなわれてきましたが、新卒先生に三医会会員の出発点で同窓会の共有感が得られれば幸いです。同時に学生さんに情報提供できれば、と思います。来年も予定しています。

また私は支部総会に長年 参加してきましたが今  
本部の総会に6月26日出席しました。以前より本部の同

学術的な雰囲気あり形態もしっかりしておつ  
引き続く  
懇親会では、往々數多ついた教授の先生方が田の前の削りおろれい生の学生

時の事や、うれしい出来事など、いろいろ思い出しました。いくつも年頃がすきでも、先生は先生、いよいよ学生なので、うれしいです。本部の総会では、うれしいです。

の先生方とのこの支部の良き活動を共有できればと考えています  
会長 一年目ですがしばらくは 宜しくおねがいいたします

の一酸化窒素の測定があげられるがなぜ低値となるのかについては不明である。現段階では本症に対する根治治療ではなく、早期発見して生活指導や予防接種、呼吸器感染罹患時の適切な治療などにより気管支拡張症の進展や肺機能低下を予防することが生命予後に重要である。本症の一部のカルタゲナー症候群や進行例を除くと診断は容易でないため、幼少時より呼吸器感染を反復する症例では、家族歴を詳

## 支部長を二期6年の任期を終えて

杉本 浩一 (S42年卒 大阪府)

平成17年2月兵庫県担当（神戸市）の支部総会で3代目の支部長に選出していただき無事二期6年間の大役を果すことが出来ました。2代目支部長の高橋三先生の体調が今ひとつ芳しくなかつたので二医会本部の会合には私が代理出席し、三医会総会の議長を三医会会长のご好意で努めさせて頂いていましたので結局12年間の長きに涉つてかかわりあいを持つこととなりました。その間たくさんの方にご支援をいただきの様に無事二期をまつと出来たのだと思つています。500人も所属する関西支部ですので支部活動の現状をよく知つて頂くために会報の発刊を実行しました。原稿もあちらこちらにアンテナを張つておいて学術的なことや趣味などの投稿をお願いして裏表紙には薬品会社の広告を掲載し印刷費用を捻りました。この会報も皆様方のお陰で6ヶ月継続することが出来ました。本部との連携は極力に重要視し、北川事務長さんとの連絡も頻繁に行ない、毎年三医会総会での支部活動報告をPower Pointで理解して頂きやすい方法で報告し、年末の忘年会を兼ねた三医会振興会の表彰式にも出席し懇親を深めることによって関西支部の存在をアピールしました。河原田会長の要請で8月の東京新宿で開催される関東支部総会にも出席し関西支部の活動状況を報告し皆さんと顔馴染みになることが出来ました。毎年2月に開催する関西支部総会はこの6年間2府4県を輪番に開催することが出来ました。担当をお願いした先生は大変だったと思います。本当にありがとうございました。感謝です。支部の会計も支部総会を製薬会社との共催としたためかなり余裕が出来て私が引き継いだ際より大幅に剰余金を繰り越すことが出来ました。



## 日本大学医学部形成外科学系形成外科学分野 二代目教授に就任して

日本大学医学部形成外科学系形成外科学分野  
主任教授 仲沢 弘明 (S58年卒)

昨年7月1日、日本大学医学部形成外科学系形成外科学分野、主任教授を拝命しました。

昭和58年3月に三重大学医学部を卒業し、5月に東京女子医科大学形成外科に研修医として入局以来27年間、東京女子医科大学で研鑽させていただき、平成19年8月に東京医療センター形成外科教授を拝命しましたが、諸般の事情により日本大学にお世話をなさるようになりました。日本大学は、ご存知の通り、学生数10万人以上で卒業生は100万人以上の日本最大の大学であり、日本の会社の社長数も26099人と数の上では日本No.1を誇ります。医学部の歴史は、大正14年3月、日本大学専門部医学科が駿河台に開設されたのがはじまりで、今年で86年になります。現在の板橋病院が開設されたのは、昭和38年5月で、当時東洋一大きな病院と評判となつたそうですが、現在では築後48年となり古めかしくなつております。そろそろ新病院建替えの計画が進んでおります。

形成外科が開設されたのは、平成13年6月、当時の第一外科の診療科として、女子医大形成外科から移られた佐々木健司先生と一名の教室員でスタートしました。その後、平成16年4月に形成外科学院として独立し、大きく成長してきました。ところが、一昨年9月に佐々木先生が急逝され、その後の教授選抜に、女子医大形成外科および同門会のご支援を受け立候補させていただき、無事二代目を就任することができました。佐々木健司先生は女子医の先輩であり、私が女子医へ入局して以来、公私ともどもご指導いただき、大変お世話になつた恩師であります。今後は、佐々木先生の築かれた教室の良き伝統を継承しながら、さらなる発展に努力する所存です。現在、4名のスタッフと4名の専修医（研修医）で頑張っております。傷の治らない患者さん、再建の必要な患者さんなどがいらっしゃいましたら、ご連絡いただければ幸いです。教室員一同全力を挙げて治療させていただきます。

今後とも、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申上げます。

## 不定愁訴の治療 — 東洋医学と心身医学を駆使して

日本赤十字社和歌山医療センター心療内科  
部長 西田 慎一 (H5年卒)

約1年前より支部長の後任を昭和50年代卒のどなたかにお願いしなければ（支部長の任期は2期6年と余則で規定）と思つていきました。私を支えてくださったCabinetからとは思つていました。このなかでもガツツがある兵庫県（神戸市）の松原隆志先生（S54年卒）にお願いしたところ快く引き受けたホットしています。私は名誉支部長に選出して頂きましたが、一兵卒のつもりで今後とも会の発展のために協力していく所存です。宜しくお願ひ申上げます。この6年間のご支援を本当にありがとうございました。

## “オヤジとJazz Sax”

深澤耳鼻咽喉科 深澤 啓一郎  
(S61年卒 神戸市兵庫区)

40歳の誕生日、このまま仕事をし、歳を重ねるだけでいいのだろうか？という焦燥感がなぜか湧き上がる。たまたま、押入れの掃除をしていると三重大学生の時にロックバンドで吹いていたテナーSaxを発見する。卒業してもう20年以上も吹いてない。楽器ケースを恐る恐る開く。プラスに輝くSaxはまだ健在だった。丁度、自分が好きになり始めた頃で、これからはJazzでSaxをやろう、と決心する。と、言えは聞こえはいいのですが、かつてよくSaxが吹ければよい悪オヤジの面目躍如で、きっと世の女性にもてるに違いないとの下心ありありの動機でSaxを再開してます。

皆さんは、「不定愁訴」の患者さんの診察はどうにされたいのか？とりあえず検査をして異常が見つかなければ、デパスの

处方と「ストレスをためない生活をしてくださいね」と説明して終わり、といつて先生が多いのは無いでしょうか。でも、「ストレスをためない生活」とはいつたいじつぶつにすれば良いのでしょうか？この「不定愁訴」を訴える患者さんの診察を好きな先生はおそらくあまりいないと思いますが、私はへそ曲がりで、このような患者さんを日々診療しています。

「検査で異常の見つからない不定愁訴」にも、さまざまな種類があります。1つは、器質的疾患の見落としです。膠原病、神経内科疾患、先天性疾患など、早期や軽症では見落とされることがあります。2つめは、機能的疾患です。たとえば消化器疾患では、GERD、functional dyspepsia、そして過敏性腸症候群などがあります。これらの疾患も最近では食道内圧PH測定や胃電図などの機能検査により、従来は「気のせい」とされていたものが、機能異常であることがありました。諸般の事情により日本大学にお世話をなさるようになりました。日本大学は、ご存知の通り、学生数10万人以上で卒業生は100万人以上の日本最大の大学であり、日本の会社の社長数も26099人と数の上では日本No.1を誇ります。医学部の歴史は、大正14年3月、日本大学専門部医学科が駿河台に開設されたのがはじまりで、今年で86年になります。現在の板橋病院が開設されたのは、昭和38年5月で、当時東洋一大きな病院と評判となつたそうですが、現在では築後48年となり古めかしくなつております。そろそろ新病院建替えの計画が進んでおります。

形成外科が開設されたのは、平成13年6月、当時の第一外科の診療科として、女子医大形成外科から移られた佐々木健司先生と一名の教室員でスタートしました。その後、平成16年4月に形成外科学院として独立し、大きく成長してきました。ところが、一昨年9月に佐々木先生が急逝され、その後の教授選抜に、女子医大形成外科および同門会のご支援を受け立候補させていただき、無事二代目を就任することができました。佐々木健司先生は女子医の先輩であり、私が女子医へ入局して以来、公私ともどもご指導いただき、大変お世話になつた恩師であります。今後は、佐々木先生の築かれた教室の良き伝統を継承しながら、さらなる発展に努力する所存です。現在、4名のスタッフと4名の専修医（研修医）で頑張っております。傷の治らない患者さん、再建の必要な患者さんなどがいらっしゃいましたら、ご連絡いただければ幸いです。教室員一同全力を挙げて治療させていただきます。

それはまるで難事件を担当する刑事のよつな感覚です。そこで利用するのは、心身医学の考え方と、東洋医学です。この2つの手法をフルに使って、「謎解き」をします。そして導き出した答えを患者さんにフィードバックするとともに、処方や心理療法を行います。首尾良く「難事件」（今までどこに行つても治らなかつた患者さん）が解決した時の喜びは大変大きく、また病気の回復過程で患者さんがさまざまな心理的な洞察を得て、人間的に成長していく姿を見るのは私自身の人生勉強にもなります。「不定愁訴」の患者さんが嫌いな先生は、ぜひ心身医学や東洋医学を勉強していただきたいと思います。今まで「面倒くさい患者」が「興味深い患者」に変わるかも知れません。

## Information

## 水産放浪歌

海の かなたの 南水洋は  
男 多恨の 身の捨てどころ  
胸に 秘たる 大願あれど  
ゆきて 帰らじ 望みは持たじ

TVで南極の話を見ていて  
学生の頃 水産の人と  
歌ったのを 思い出しました。  
諸氏はいかがでしたか?



## 平成24年関西支部総会のご案内

日時 2月5日(日)  
場所 チサンホテル 神戸  
神戸市中央区中町2-3-1  
TEL 078-341-8111

是非ご参加下さい



僕のSAXの腕前はなかなか上がらないです、世の女性からの言い寄られたことは残念ながらまだないのですが、伊丹にあるBig Bandに参加したり、ライブハウスでのJazz Sessionに参加したりで楽しんでいます。三医会の方々で、Jazzがお好きな方、興味のある方がおられましたら是非、こ一報ください。関西には多くのJazzバーがあり、いつでもこ案内いたします。参考に、以下に僕がよく行くJazzバーを挙げておきます。

1. グッドマン：三宮にあり、毎週金曜にJazzライブがあります。
2. Song：北野坂にある老舗のバー。女性ボーカルが中心です。
3. Mr.Kelly's：大阪キタにあり、毎日ライブがあります。かなり有名人が登場します。
4. Great Blue：JR三鷹駅近くにあり、こも女性Jazzボーカルを中心です。
5. Justin time：神戸元町駅のやや西にあり、パラゴンというスピー
- カーラーの名跡があります。日~、3回ライブをやっています。
6. コーナーボケット：阪急西宮北口にあり、とても小さな店ですが、関西若手Jazzメンもよく登場する、老舗です。

小生、S61年三重大卒業後、阪大耳鼻科入局。その後、近畿中央病院(伊丹)、兵庫医大と勤務し、H19年から現住所で耳鼻科クリニックを開業しております。Jazzにはまつ、二宮グッドマンといつJazzバーに毎週入り浸り(金曜にJazzライブやってます)。開業地も、こどもJazzバーに結構近い、との基準で決めたようなものなのです。開業後、同じ兵庫区で開業されている松原先生(本会会長)が三重大同門であったことが判明し(開業まで存じ上げておりませんでした)、さりとJazz guitarがお好きであることもあり、最近は時々 Jazz liveをこ一緒にさせていただいてます。

兵庫県立西宮病院は、地域と連携して阪神地域の急性期医療の中心核を担う基幹型病院です。診療科目は内科・消化器内科・血液内科・腎臓内科・循環器内科・小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・救急科・病理診断科があります。また救命救急センター・腎疾患総合医療センター・未熟児センターを擁しています。

厚生労働省の定めにより必修科目は内科が6ヶ月、救命救急センターが3ヶ月、地域医療研修1ヶ月で、選択必修科が外科・小兒科・産婦人科・精神科と麻酔科から2科目以上とされました。西宮病院では独自に外科3ヶ月を必修としており、初期研修1年目では内科は2ヶ月、外科3ヶ月、救急科3ヶ月をローテートします。内科は2ヶ月ごとに消化器内科・循環器内科・代謝内分泌内科・血液内科・腎臓内科で研修します。どの科でも共通して、指導医とマンツーマンで診療にあたって豊富な経験を積むことができます。

基幹型病院と専門病院が連携して兵庫県立病院群を構成しており、また初期研修2年目では10ヶ月間(院内自由選択研修4ヶ月、自由選択研修6ヶ月)の自由選択研修の期間が設けられているため、2年目の研修はかなり自由度が高くなっています。



私は4月～6月を外科、7月～9月を救急科で研修し、10月からは内科での研修が始まっています。外科での3ヶ月間は、病院で働くことと自体に慣れることで手一杯なところがありましたが、術後管理や創処置については多くのことを学べたと思います。救急科での3ヶ月間は、初期対応としてどんな診察、検査が必要で、何が優先されるかといった考え方やここの管理の基礎を学びました。また他科の患者と比べ、社会復帰の道をマネジメントすることがとても重要な研修は、やはり自由度が高くなっています。

## 兵庫県立西宮病院での初期研修

飯尾 まゆ奈 (H23年卒)

あり、楽しい毎日を送っています。医師として、また社会人としてもまだ未熟ですが、精進を重ね、成長していくたいと思います。



▲関西支部総会  
集合写真  
平成23年2月6日  
於 ホテル日航大阪



◀関西支部「夏の会」  
集合写真  
平成23年5月14日  
於 大阪市安倍乃荘

## 三医会関西支部役職者一覧表 (敬称略)

◆支部長	松原 隆志(S54年)	◆監査役	庄村 東洋(S36年)
◆副支部長(各府県1名)			安藤 仁郎(S38年)
大阪府	蔭山 充(S52年)	◆勤務医会代表の理事	
京都府	石田 晟(S39年)		岡田 行功(S49年)
兵庫県	深沢啓二郎(S61年)		林田 孝平(S50年)
奈良県	西川 勝仁(S53年)		斉藤 徹(S52年)
和歌山県	中村 光作(S53年)		習田 龍(H7年)
滋賀県	山形 高志(S51年)		豊川 貴弘(H10年)
◆専務理事			武内 真有(H16年)
総務	宇野 敦彦(H5年)	◆開業医会代表の理事	
	高澤 正志(H8年)		布谷 隆明(S49年)
会計	猪尾 芳弘(H7年)		細野 進(S51年)
	陳 慶祥(H7年)		倉田 順弘(S54年)
厚生	小川 佳成(S63年)		山下 宜繁(S59年)
	西原 承浩(H1年)		有山由布子(S63年)
I.T	譜久山 仁(H10年)		町田 英世(H2年)
	辻川 薫(H5年)	◆名誉支部長	杉山 茂男(S24年)
			杉本 浩一(S42年)